

Umbrella VAでのロードバランシングの設定

内容

[はじめに](#)

[概要](#)

[前提条件](#)

[検証](#)

[LinuxまたはOSX](#)

[Windows](#)

はじめに

このドキュメントでは、Umbrella仮想アプライアンス(VA)でロードバランシング(LB)を設定する方法について説明します。

概要

ロードバランサが主要な前提条件をいくつか満たしている限り、包括VAのロードバランシングは実行可能です。

現在のところ、F5 GTMアプライアンスで動作することが判明している設定を含む1つの記事のみを提供しています。

<https://support.umbrella.com/hc/en-us/articles/235170307-F5-GTM-Load-Balancing-of-Virtual-Appliances-using-priority-groups->

前提条件

他のベンダーのソリューションについてはテストしていませんが、仮想アプライアンスがロードバランサの背後で機能するために満たす必要がある2つの前提条件があります。

1. クエリを作成するクライアントの送信元IPアドレスは、仮想アプライアンスにクエリを渡す際に保持する必要があります。
2. 仮想アプライアンスからのDNS応答は、ロードバランサを介してルーティングされる必要があります。これにより、クライアントへの応答は、ロードバランサのアドレスから来たものとして表示されます。

これらの前提条件が満たされないと、仮想アプライアンスは内部IPアドレスに基づいて適用およびレポートを実行できなくなります。これは、Active Directoryの統合も機能しないことを意味します。

2番目の前提条件が満たされていない場合、クライアントは応答をドロップします。

検証

これを確認するには、次のクエリを実行します。

LinuxまたはOSX

```
dig @<ロードバランサip> txt debug.opendns.com
```

Windows

```
nslookup -type=txt debug.opendns.com <ロードバランサip>
```

応答の次のような行を確認します。

「debug.opendns.comにアクセスしてください。0 IN TXT 「fw: source x.x.x.x:xxxx」

リストされたIPアドレスが、クエリの発信元マシンのIPアドレスと一致する場合、ロードバランサは元の送信元アドレスを渡しています。IPアドレスがロードバランサアドレスとして表示される場合、ロードバランサは元のクライアントの送信元IPを渡さず、VAはUmbrellaダッシュボードに適切にレポートされません。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。